

九大の昆虫コレクションをデジタル資産化し運用するプロジェクト始動 -学生グループ「BugChain」のクラウドファンディング開始-

九州大学は古くから昆虫の研究が盛んで、国内最大の 400 万点以上の昆虫コレクションを保有しています。これらの標本や関連資料は保管スペースや維持管理費の確保が課題となっています。また重要な資産であるものの、研究以外には積極的に活用されていませんでした。

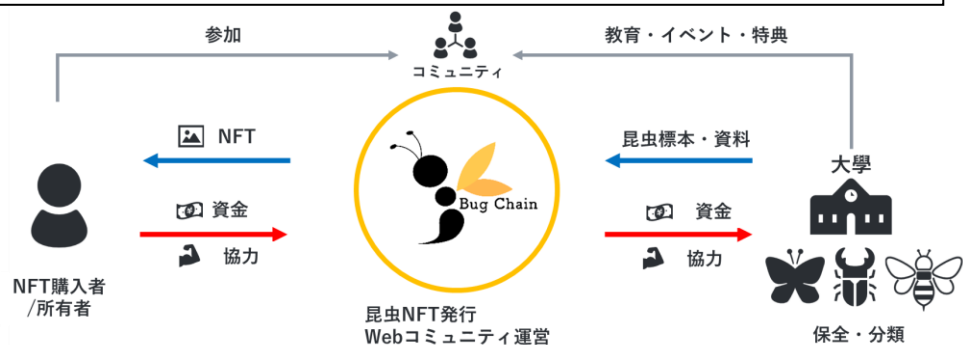
そこで九州大学・比較社会文化研究院の小川浩太助教らのグループは、九州大学の学生グループ「BugChain」と協力して、これらの昆虫コレクションをブロックチェーン(分散型台帳)の技術によりデジタル資産化し、運用する実証実験を開始しました。

この取り組みでは、九州大学が保有する貴重かつ芸術性・新規性の高い昆虫資料、例えば顕微鏡レベルまで拡大可能な超高精細画像や精密 3D モデルなどを NFT※化し、活用や収益化する方法を模索します。九州大学の昆虫標本と研究者が持つ研究・解析技術にブロックチェーン技術を掛け合わせることで、これまでの研究活動で集積されてきた標本からその標本の維持管理費を捻出する新たな自助自立型のエコシステムの構築を目指します。この資金調達スキームが確立されれば生物多様性研究や保全に係る資金ギャップの解消に繋がるものと期待されます。

なお、学術系クラウドファンディングサイト「academist (アカデミスト)」にて BugChain への支援を募集しています(<https://academist-cf.com/projects/307?lang=ja>)。募集期間は 2023 年 9 月 20 日から 11 月 16 日 17 時までです。皆様の応援をどうぞよろしくお願いいたします

【プロジェクト概要図】

大学や博物館の資料を NFT 化、希望者に販売・譲渡します。NFT を介したコミュニティを形成し、研究機関や保全団体とユーザーの継続的な関係性を構築します。



【用語解説】

(※) Non-Fungible Token (非代替性トークン) の略で、「偽造不可な鑑定書・所有証明書付きのデジタルデータ」のことで、ブロックチェーン(分散型台帳)技術によってデジタルデータの偽造や改ざんを防止し、デジタルデータに資産価値を持たせます。



小川助教からひとこと：

このプロジェクトは生物多様性の基礎研究や保全活動が慢性的に抱える資金ギャップ問題を解決できる可能性があります。BugChain 代表の浅見昂志さんは共創学部の第一期卒業生で、柔軟なアイデアでプロジェクトを牽引しています。本アイデアで九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センターの「アイデア・バトル」採択、「社会的課題解決に向けたアイデア・提言コンテスト 2023」奨励賞の実績もあり、今後の更なる活躍が期待されます。

【背景と経緯】

生物多様性の保全は SDGs の目標の一つにも掲げられており、生物多様性研究の基盤ともいえる分類学や環境保全活動の重要性は近年より一層増してきています。しかし、多くの分類学の研究室や博物館では、膨大な数の資料の保管スペースや空調・湿度管理が必須の標本類の維持管理費の確保が課題となっています。先日、国立科学博物館（かはく）が目標 1 億円の大型クラウドファンディングを行い、わずか 1 日で目標を達成したことが話題になりましたが、このことから問題の大きさとこの問題に関心を持っている人の多さが分かるかと思います。

九州大学は国内最大の昆虫標本収蔵数を誇る日本の昆虫学の総本山ですが、膨大な資料は研究以外にはほとんど活用されておらず、保管スペースや維持費など経済的な負担は決して小さくありません。さらに、昨今では「経験の喪失」による「自然離れ」が指摘されており、将来的に保全活動や分類学を担っていく人材の確保・育成にも多くの課題があります。そこで、本プロジェクトでは、まず収蔵資料に NFT という付加価値を与えることで、どのような運用が可能となるか検証していきます。また、NFT を介し、自然史資料に触れ合えるコミュニティを形成し、将来、分類学や保全活動に携わる人材の育成にも繋げたいと思っています。

【活動の意義と今後の展開】

「生物多様性国家戦略 2020-2030」の「基本戦略 5：生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進」では、「世界的な生物多様性保全に係る資金ギャップの改善に向け、生物多様性保全のための資金が確保されている」という状態目標が掲げられていますが、これを達成するための具体的な方策は「検討中」とされています。実際、大半の環境保全の現場では、労働力はボランティアに、活動資金は補助金や寄付に頼っているのが実情で、事業の継続性には問題を抱えていることが多いのです。保全に限って言えば、エコツーリズムが主要なマネタイズ方法として海外を中心に広がっていますが、環境負荷も高く新たなマネタイズ手法の普及は急務です。このように脆弱な経済基盤の上にある保全活動や分類学の現場において、新たな自助自立型のマネタイズシステムを構築し、普及させることの意義は極めて大きいと言えます。今回のプロジェクトで我々が対象とするのは九州大学に収蔵されている昆虫標本とその関連資料ですが、研究活動や保全活動で集積されてきた自然史資料を新たな資金源とするスキームは他の生物や研究分野にも適応可能です。例えば、保全活動の際に記録された映像資料や活動記録なども NFT 化し運用することが可能です。このように、本プロジェクトは継続的・安定的な経済基盤構築を必要とする様々な保全活動や研究活動のモデルケースになることが期待されます。

【関連】

BugChain

代表：浅見昂志

mail: insect.nft.jp@gmail.com

クラウドファンディング

「昆虫標本・資料を資産化して持続的な昆虫研究を提案したい BugChain」

<https://academist-cf.com/projects/307?lang=ja>

世界に先駆けてリアルな「3D デジタル生物標本」を 1400 点以上公開

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/802/>

*鹿野雄一先生(現・一般社団法人九州オープンユニバーシティ 理事・研究員)も本プロジェクトに参画



【お問合せ先】

<研究に関すること>

九州大学大学院 比較社会文化研究院 助教 小川 浩太（オガワ コウタ）

TEL：092-802-5627

Mail：k-lepi83@scs.kyushu-u.ac.jp

<報道に関すること>

九州大学 広報課

TEL：092-802-2130 FAX：092-802-2139

Mail：koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

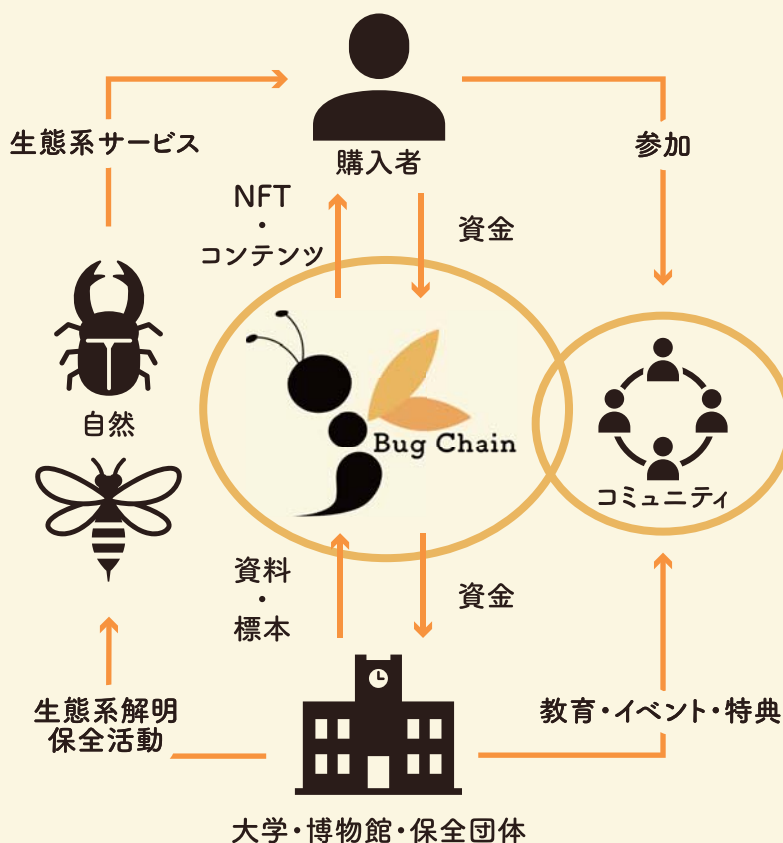
昆虫と、人をつなぐ。

Bug Chain

Bug Chainは、
昆虫標本をNFT化して、
研究や保全に還元する
エコシステム構築に
挑戦するプロジェクトです。

昆虫研究の標本・資料をNFTアートとして非破壊的に資産化。
生物多様性研究における新たなエコシステムの構築を通じて
「自然」や「研究」と市民を繋ぎ、持続可能な研究・保全活動ができる世界を目指します。

私たちの目指す姿



クラウドファンディング

Bug Chainでは、学術系クラウドファンディングサイトである「academist(アカデミスト)」にてNFTやDiscordコミュニティへの参加をリターンとしたクラウドファンディングを実施しています。是非、下記のQRコードから詳細をご覧ください。

■ NFTとは？

NFT(Non-Fungible Token / 非代替性トークン)とは、これまで複製が容易であったデジタルデータに対して、ブロックチェーン技術を活用することで、唯一無二な資産的価値を付与したものです。私たちは唯一無二である昆虫標本、代替不可能な生物多様性をNFTアートとして保存し、提供します。

アカデミスト(academist)
クラウドファンディングページ



@insectNFTart



insect.nft.jp@gmail.com